

自民党山口県参議院選挙区第三支部長
参議院議員

岸 信 夫

9月に入っても日中の残暑はまだまだ厳しい。でも朝晩はもう秋の気配です。日照不足でお米の作柄が気になります。

インフルエンザもまん延しています。季節の変わり目だけに、十分ご自愛ください。



この一か月 - 衆議院選挙を終わって -

衆議院の解散のあと、8月18日より選挙戦に突入。30日に開票が行われ、結果は民主党の大躍進、政権与党・自民党の惨敗という厳しいものとなった。お灸をすえるという程度のものでなく、旧態依然の自民党が完全に切り捨てられた。選挙中、我々は民主党の政策における不明確な財源などを指摘し、また政治理念についても懸念を述べてきた。安全保障や教育など、国政の専管事項について民主党の考えに危惧をとらえ、我が方の政策を説明し、支持をお願いしてきたが、しかしそれでもなお、自民党にはダメ出された。民主党躍進の原因のひとつは、官僚政治の打破について有権者が民主党に希望を託したことだろう。我々もこれまで何度となく霞ヶ関にメスを入れようとしてきた。公務員制度改革を進めようとするたび、大きな抵抗によって阻まれてきた。民主党にこれを是非やってほしいと思うのも当然のことだ。

各省から出された概算要求についても、民主党政権では見直すという。しかし、国の安全保障に穴の開く様な事態だけは避けてもらいたい。防衛政策についていえば、今年末に控える防衛計画大綱の見直しについても1年先延ばしになる可能性も言われているが、日米関係を含め、外交防衛は国際社会にたいするコミットでもあり、先延ばしは許されない。民主党が政策の目玉としてきた「こども手当」や「高速道路無料化」なども公約を果たすなら、すぐにでも財源確保を含めてきちんと説明しなければならない。あいまいに先延ばしすれば、来年の参議院選挙では再び有権者の厳しい判断が下されよう。

我々は失った信頼の回復に全力を傾注する。今こそ自民党は結党の原点に立ち返り、真の保守政治が目指す国の姿、社会のあり方を問い直さねばならない。1955年の結党当時と現在とは社会構造も、国際秩序も、比べようもなく大きく変貌している。保守であるがゆえに時代の潮流に対応できなかった古い自民党とは決別し、これから我が国が直面する更なる変化に先駆けて自らを変革することにより、新たな保守政党として生まれ変わることを今求められている。参議院選挙を控えてこちらを待たないで。

目次:

この一か月	1
長門自衛隊友の会総会	1
主な活動記録	2
月例経済報告 8月	3
敬老会	3
対馬視察	3
日台フォーラム	3
最近の関心事	4



長門自衛隊友の会 総会 記念講演 8月24日

長門で行われた自衛隊友の会総会で我が国の安全保障政策について話をさせていただきました。

冷戦が終わってもその構造を引きずったまま、更にテロや海賊、インフルエンザなど、新たな地域の安全保障の課題に直面する日本は来年、日米安保50周年という節目の年を迎える。我が国の平和と安全を確保し、地域や国際社会の安定に寄与するために何をすべきか、日米同盟のあり方、台湾、中国との関係、武器輸出三原則や集団的自衛権などについて私の考えをお話した。

主な活動記録（8月1日～9月21日）

- 8月 2日 田布施はげの突ろうそくまつり
 4日 第一回防衛会議、山陰自動車道建設促進懇談会
 5日 練馬駐屯地視察
 7日 岩国の明るい未来を創る会 署名簿受領
 宇部倶楽部 来省
 13-14日 防衛省技術研究本部視察
 15日 靖国神社参拝、全国戦没者追悼式、山口県遺族連盟
 18日 衆議院選挙公示
 19日 第28次ゴラン高原派遣輸送支援隊(UNDOF) 出国行事
 21日 護衛艦 いせ 命名・進水式
 24日 長門自衛隊友の会・総会 記念講演
 25日 和木町長選挙 出陣式
 26日 「長州ファイブと横浜開港150年」記念フォーラム(宇部)
 28日 防衛省・環境川柳表彰式
 自衛隊病院の在り方検討会議 報告書とりまとめ
 30日 衆議院選挙開票
 31日 自殺事故防止対策本部事務局会議
 防衛省改革本部会議、予算省議(概算要求)
- 9月 1日 政府防災訓練、山口青信会幹部会
 3-4日 対馬視察
 5日 天皇陛下ご即位20周年記念式典実行委員会
 8日 自民党両院議員総会
 9日 府中基地視察、第8回日台フォーラム参加
 11日 山口県いけばな作家協会 岩国市茶華道連盟 祝賀会
 吉南青信会幹部会
 12日 信力会幹部会
 13日 山口市白石地区敬老会へ
 14日 防衛省最後の会議
 16日 特別国会召集、首班指名
 18日 自民党総裁選挙。党の再出発へ
 19-21日 田布施、平生、下松、柳井 敬老会



8月5日 練馬駐屯地視察



8月7日 岩国の明るい未来を創る会代表者から署名簿を受領



8月7日 宇部倶楽部 来省



8月21日 護衛艦いせ 進水式



8月25日 和木町長選挙



8月31日 防衛省改革本部



8月28日 環境川柳表彰式



9月11日 いけばな作家協会・岩国市茶華道連盟 祝賀会

◇◇◇8月 月例経済報告◇◇◇ 内閣府の経済報告を基に、わかりやすい経済をお伝えします！

◎今月の基調判断

「景気は、厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きが見られる。」

〔解説〕

GDPが持ち直したことから、企業の輸出入や生産面、また個人の消費活動に若干の改善の動きが見られる。世界経済で見れば、特にアジア経済の回復基調が見られる一方、徐々に欧米諸国が景気好転のきっかけをつかみつつある状況。引続き、金融経済のリスクは警戒が必要であろう。

主要な動きの判断

- (1)個人消費の持ち直しの動き
- (2)企業の輸出入量の持ち直しの動き
- (3)非労働者・学卒未就職者の増加傾向
- (4)消費者物価 下落の動き

主要ポイント

- A. 8月30日衆議院総選挙間近
- B. 世界的な株式市場の回復
- C. 企業の合併・提携の動き
- D. 銀行間金利 日米逆転現象

敬老会

県内各地で敬老会が開催され、多くの人生の先輩方が参集された。いつの日も後に続く若者にお手本を示していただきたい。



9月19日 田布施敬老会



9月20日 平生敬老会



9月21日 下松・東陽敬老会



9月13日 白石地区敬老会



9月21日 柳井敬老会

対馬視察

9月3-4日

韓国資本による土地買収や韓国からの観光客の行動が問題となり、国会でも取り上げられた対馬の自衛隊の陸海空各部隊を視察。

対馬は福岡より150キロ、韓半島までは50キロのところに位置し、古くより交通の要衝であり、また防衛上重要な拠点として部隊が配備されてきた。現在では海上自衛隊対馬防備隊(本部、上対馬、下対馬の各警備所、航空自衛隊第19警戒隊(海栗島分屯基地)、陸上自衛隊対馬警備隊に合計約700名が配備され、対馬海峡周辺の警備にあたっている。

離島部隊の視察は見島に続いて2度目だが、本土から遠く離れた地で職務に精励する各部隊の隊員たちにはいつも頭が下がる。



対馬の北、海栗島は離島の離島。空自基地では韓半島との間の航空機通行を監視する

第8回日台フォーラム 参加

9月9日

「日台関係と今後の東アジア」をテーマにして公開シンポジウムのパネリストとして参加。

台湾では台風8号の被害が拡大。政府の不手際が指摘されて馬英九総統の支持率は急落、内閣が総辞職に追い込まれた。これまでの想定をはるかに超えるような天災などに対して、日台間で共同対処するためのスキームを構築し、協同訓練を実施することを通じて地域の平和と安定に寄与することを提案した。





参議院議員 岸 信夫 プロフィール

- ・自民党畜産酪農小委員会
委員長代理
- ・参議院外交防衛委員会委員
- ・国家基本政策委員会委員
- ・自由民主党山口県参議院選
挙区第三支部長

経歴 昭和34年4月1日生
昭和56年 慶應義塾大学経済学部卒業
住友商事(株)入社 穀物部
米国・ベトナム・豪州勤務
平成14年 住友商事(株)退職
平成16年 第20回参議院選挙 初当選
平成20年 防衛大臣政務官

自民党 国会対策副委員長、
農林・外交部会副部長
参議院 行政監視委員会理事
総務委員会、農林水産委員会
政治倫理の確立及び選挙制度に関する
特別委員会、国際問題に関する調査会
ほか各委員

山口県内事務所

山口事務所：
〒753-0067 山口市赤妻町3-20 信和ビル104号
TEL：083-934-0460 FAX：083-934-0461
E-Mail：yamaguchi@kishi-jpn.com

岩国事務所：
〒740-0017 岩国市今津町1-10-17三福ビル201号
TEL：0827-30-7000 FAX：0827-30-7001
E-Mail：iwakuni@kishi-jpn.com

田布施事務所：
〒742-1511 熊毛郡田布施町大字下田布施3391
TEL：0820-52-2003 FAX：0820-52-2003
E-Mail：tabuse@kishi-jpn.com

国会事務所： 参議院議員会館
〒100-8962 千代田区永田町2-1-1 207号室
TEL：03-3508-8207 FAX：03-5512-2207
E-Mail：nobuo_kishi01@sangiin.go.jp

ホームページもご覧ください
<http://www.kishi-jpn.com>
ブログはこちら↓
<http://www.ameblo.jp/nob-1/>



◇◇◇最近の関心事◇◇◇

<平和の意味>

戦後日本は武力を用いず、外交交渉を行い、経済発展を遂げてきた。なぜ日本が武力によって国の主張をする必要がなかったのかそれは、日米安全保障条約があるからである。憲法9条があるから平和なのではなく、日本国民全体が平和を望み、平和を維持しようとする努力を怠らなかった、今もなお努力し続けているからである。

昨今日本の隣国で武力による行動を起こしているところも認められるが、日本は武力によってこれに対応することは憲法に記載されているとおり不可である。外交努力・対話と国連決議に基づく、経済的な圧力で対応している。

再度言おう。平和は「何もしない」ということではなく、あらゆる要素の尽力の結晶が、結果平和を生みだしている。常に日本国民全体は、日本国が平和であるよう時代の変化に対応しつつ、努力し続けなければならない。

<激甚災害>

8月25日午前の閣議で、山口・九州北部集中豪雨災害が激甚災害指定がなされた。激甚災害指定とは、国民経済の大きな影響を及ぼす災害で、復旧作業等に要する事業費が一定の基準を超える場合に際し、自治体に係る負担を軽減し、また被災された方への助成等を行う目的をもって内閣が閣議で決定し、国が政令として発するものである。

今回のこの指定によって、この災害に係る事業、特に農地、農業用地施設及び林道関係の復旧事業費の国庫補助率がかさ上げされ、結果として県や市の負担が少なくなる。こういった国の対応により、早期復旧が円滑に行われることになる。被災された方々の一日も早い復旧が期待される。

山口事務所

吉田 充宏